

観光社会資本の事例

テーマ	かつての公家屋敷の茶室・京都御苑拾翠亭	
【施設の状況写真】		
		
<p>拾翠亭は今から約 200 年前の江戸時代後期に建設されたと伝えられ、当時の五摂家の一つであった九条家の別邸として使用されました。</p>	<p>2001 年（平成 13 年）保存修理が行われ、一般に公開されており、またお茶会等の会合にも利用されています。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>拾翠亭は春から秋にかけて毎週金曜日と土曜日に一般公開されています。前面に広がる池は九条池と呼ばれ、東山を借景とし拾翠亭からの眺めを第一につくられたといわれています。池に架かる高倉橋から見るサルスベリは、拾翠亭を背後にして夏の京都御苑を代表する風景の一つとなっています。</p>	<p>当時は主に茶会のための離れとして使用され、内部には今も十畳と三畳のふたつの茶室が残されています。今でもお茶会等に利用することができます。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>京都御苑は、京都御所・仙洞御所などを囲む面積約 63ha の公園で、終日開放されており、約 5 万本の樹木が生育し、御所周辺の由緒ある景観を維持する庭園としての機能はもちろん、散策や休養、自然や歴史とのふれあい、スポーツなど、古都京都の中心部に位置する広大な緑の空間として多くの人々に親しまれています。</p> <p>拾翠亭はこの京都御苑内にあり、江戸時代後期に茶室として建てられたもので、現存する貴族の茶室としては数少ない重要な文化遺構となっています。</p> <p>現在、拾翠亭は一般の参観の他、茶会や句会、謡曲などの会合などにも貸し出されています。</p>		

テーマ	かつての公家屋敷の茶室・京都御苑拾翠亭
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 京都御苑拾翠亭</p> <p>所在地 京都市上京区京都御苑3</p> <p>事業名 -</p> <p>事業主体 国</p> <p>事業期間 完成年不明、平成13年(保存改修整備)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>拾翠亭は江戸時代後期に建てられたと伝えられ、五摂家の一つである九条家の現存する唯一の建物で、主に茶会や歌会等社交の場として利用されていました。</p> <p>明治・大正期にも幾度か改修され、近年は1983年(昭和58年)に屋根を部分的に葺き替えるなどの一部修理は行われましたが、江戸時代に建てられて以来大規模な修理が行われることがなかったため、楼閣部の老朽化も著しく、雨漏りや建物全体にゆがみが発生するなどの損傷がみられるようになりました。そのため、構造上・機能上やむを得ない部分のみ部材を取り替えるなど、極力当初の状態を保存することを心がけながら修繕が行われました。</p> <p>保存修理工事は2001年(平成13年)に完成し、200年前の建築物を当時の面影を残したまま今の時代に引き継がれることとなり、数寄屋風書院造りの瀟洒な建物は、全面に広がる池とともに当時の貴族の生活の一端を今に伝えています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】京都御苑 http://www.kyotogyoen.go.jp/p_info.html</p>	